

## 令和2年度第1回堺市環境審議会「堺環境戦略の策定について（書面報告）」に対するご意見及び市の見解等

委員名	該当頁	いただいたご意見	市の見解等
西委員	—	環境モデル都市として、また SDGs 未来都市として、日本で最も進んだ環境問題への取組を行う都市であろうという姿勢について、当局の取組を大いに前向きに評価したい。	堺環境戦略の策定趣旨への賛同意見として承りました。
若林委員	—	30年後の未来に向けて直実な取組を！という堺市の試みを大変嬉しく拝見した。このビジョンのもと、Vision&Workで行政による環境政策と市民による環境活動がますます進められることを願う。	
西委員	—	資料には堺市が取り組んできた環境モデル都市や SDGs 未来都市の取組が一切示されていない。経過の中に加えるとともに、それらの取組についてしっかりと記載すべき。	資料には記載していませんでしたが、堺環境戦略の策定にあたっては、これまでの環境モデル都市、SDGs 未来都市としての取組を踏まえて検討していきます。
内田委員	—	今回の新型コロナ禍＝新たな生活様式を契機として、意欲的な「マイルストーン」を、場合によっては複数設定されることを希望します。	堺環境戦略の策定にあたっては、いただいたご意見等を踏まえ、新型コロナウイルス感染症がもたらす社会変化等も踏まえて検討していきます。
西委員	P5	戦略の特徴としてバックキャストिंगを記載していながら、昨年12月に市議会全会一致で決議された「気候非常事態宣言に関する決議」の趣旨が尊重されていない。同決議を踏まえて速やかな気候非常事態宣言を行うべきであるが、現時点でも宣言されておらず、その実施の有無自体が明確に示されていない点は問題である。	令和2年第1回市議会（定例会）において、市長から「全会一致の決議を重く受け止めており、それを踏まえ全国で最も進んだ環境戦略を策定したい」と答弁しているとおおり、堺環境戦略は決議を踏まえた市としての具体の対応として策定するものです。 また、宣言については、令和2年度予算審査特別委員会総括質疑にて、市長から「環境問題に関する何らかの宣言は実施したいと思う」と答弁しております。
藤本委員	P5	カーボンゼロを軸とするのであれば、市民生活だけでなく企業活動に対しても具体的な数値目標を示していただきたい。IPCC報告書を踏まえた目標設定が必要と考える。	ご指摘のとおり、カーボンゼロの実現に向けては、市民生活のみではなく、産業等の企業活動における温室効果ガス排出削減を進めることが必要不可欠となります。堺環境戦略においては、IPCC特別報告書（2018.10）を踏まえ、カーボンゼロをビジョンとして掲げ、その達成に向けた短期・中期的な取組内容や具体的な数値目標については、各環境分野の個別計画において検討していきます。
若林委員	P5	「環境政策が SDGs の達成を…日本で最も進んだ環境の将来像を描く」の文章（特に修飾部）が分かりづらいと感じた。この文章は堺環境戦略の理念と基本的な方向性を総括する一文として長く使われることになると思うので、もう少しすっきりまとめた方が読み手にとって分かりやすいと思う。	堺環境戦略の策定にあたっては、いただいたご指摘等を踏まえ、市民等により分かりやすい表現等を検討していきます。

委員名	該当頁	いただいたご意見	市の見解等
西委員	P5	「日本で最も進んだ環境の将来像」とあるが、「進んだ環境」という言葉を定義すべき。	資料では、「最も進んだ将来像」を描くという意味で記載しています。堺環境戦略では、海外事例等も参考に、環境面において国内都市の中でも最も先鋭的なビジョンを示していきたいと考えています。
若林委員	P5	高い志を示してモチベーションアップを図るという点では「日本で最も進んだ」という表現も良いが、直訳すれば「日本一」ということであり、様々な視点・形からのエビデンスが求められる今日、今後政策の具体化においてかなりハードルが高い目標になると感じた。他方で、この表現は、堺市の外から見たときに相対的で競争的なニュアンスを感じさせてしまう部分があり、友好都市や他の地域と相互に連携・協力しながら持続可能な社会をめざすという理念や方向性に鑑みても、もう少し別の表現を探してはどうか。	堺環境戦略では、海外事例等も参考に、環境面において国内都市の中でも最も先鋭的なビジョンを示していきたいと考えています。表現については、今後、いただいたご指摘等を踏まえ、より良いものとなるよう検討を進めていきます。
藤本委員	P5	キーワードは市民が見て分かりやすい言葉を使っていたきたい。	環境分野においては、専門的・技術的な用語を使用せざるを得ない場合も考えられますが、用語解説を付けるなど、市民等に分かりやすいものとなるよう努めます。
西委員	P5	想定されるキーワードが偏っている印象を受ける。「雑排水による河川汚染 <sup>*1</sup> 」「マテリアルリサイクル」「マイクロプラスチック」「4R」「自転車利用」「公共交通」「アジア各都市との連携 <sup>*2</sup> 」「友好都市との連携 <sup>*3</sup> 」「J-クレジット」「マルチステークホルダー」「エシカル消費」等もキーワードとして追加していただきたい。 ※1 堺市内各地において依然として生活雑排水の流入の問題が起きている。私道で下水道が未整備のところや下水道未整備地域はもちろんのこと、洗車用の洗剤などが直接河川流入している課題も多い。 ※2 北九州市などでは ASEAN 各国の各都市の環境基本計画策定に協力しながら、優れた環境技術をアジアで展開している。 ※3 堺市の友好都市である東吉野村や田辺市と連携してカーボンオフセットを積極的に展開していく取組が必要である。	堺環境戦略の策定にあたっては、ご指摘のキーワードも含め、将来ビジョンとして盛り込んでいくものについて今後検討・精査していきます。
西委員	P7	「外部有識者や環境系企業（ベンチャー等）」とあるが、環境系企業（ベンチャー等）のみをあえて記載した理由はなぜか。学生やNPOにもヒアリングを行うべき。SDGsの概念に鑑みて、マルチステークホルダーを意識した議論であるべき。	環境戦略策定にあたっては、環境に関する先進的な展望や最先端の技術的・専門的知見を得る必要があることから、有識者や環境系企業（ベンチャー等）にヒアリングを行うこととしています。その他、パブリックコメントの実施も含め、様々なステークホルダーのご意見を反映できるよう努めます。